

第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 会議録

1. 開催日時 令和7年5月22日（木） 15時00分～17時10分
2. 会場 長野県軽井沢町立軽井沢中学校 多目的室
3. 出席者 委員：荒井 英治郎委員、三和 秀平委員、木村 泰子委員、
西郷 孝彦委員、飯澤 幸世委員、今村 久美委員、
西野 博之委員、岡田 敏之委員、
藤木 拓道委員、一色 保典委員、向井 健太郎委員、
本城 慎之介委員、上原 浩子委員、山崎 伸一委員
久保 貴史委員、諸星 ひとみ委員、岩崎 ひとみ委員
事務局：宮本 隆教育長、内堀 繁利アドバイザー、岩井 和成課長、
金井 章宏課長補佐、金井 拓也係長、
学校教育係職員 小林 真理
軽井沢高校・教育魅力化推進係職員 根津 彩香、桐野 耕介
4. 議題 (1) 第1回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議
のまとめ（案）
(2) 今後のスケジュールについて
(3) アンケートについて
(4) 夜間中学ニーズ調査について
(5) その他
5. 傍聴人数 20名

6. 議事内容

● 1. 開 会

【岩井こども教育課長】

定刻となりました。

ただいまより第2回軽井沢オープンスクール（仮称）設置準備会議を開会いたします。

本日はご多用のところ、また遠方より多くの皆様にご出席賜り、ありがとうございます。

去る、3月7日に実施いたしました第1回会議では、委員の皆様より貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。本日の議題では、頂いた意見を事務局としましても再検討したものを反映させていただきましたのでよろしくお願いいたします。

申し遅れましたが、司会進行を務めさせていただきます、軽井沢町教育委員会こども教育課長の岩井です。

どうぞよろしくお願いいたします。

初めにですが、会議に先立ちまして事務局よりお願いいたします。

本日、軽井沢中学校授業および校舎の見学をされました委員の皆様におかれましては、受付にてお配りしました感想記入用紙ですが、紙で提出される場合は、恐れ入りますが会議終了後、事務局までご提出いただきますようお願いいたします。

なお、2次元コードで読み取っていただいて感想をいただく場合は、後日で構いませんので、提出いただければありがたいと思います。

よろしくお願いいたします。

2点目ですが、第1回目会議と同様に、本会議は対面およびオンラインの併用とさせていただき、原則として公開とさせていただいております。

今後予定している全日程においても同様の形式をとりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3点目になります。

本日は、メディア等の関係者、傍聴者もおられますが、途中での入退場を含め自由とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

この会議は事務局において、録音・撮影を行い、後日、議事録の形で町のホームページ等に掲載させていただきますので、あわせてご了承くださいたいと思います。

なお、傍聴人の方に申し上げます。

写真等 NG の場合は、恐れ入りますが事務局の方にご連絡いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

● 2. 教育長挨拶

【岩井こども教育課長】

それでは次第により進めさせていただきます。

初めに、軽井沢町教育委員会教育長であります宮本隆より挨拶申し上げます。

【宮本教育長】

皆さんこんにちは。

軽井沢町教育長の宮本隆と申します。

本日は多くの委員の皆様、本当にお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。
本日は県教育委員会の課長の皆さんにもおいでいただき、本当にお忙しいところありがとうございます。

また、始まる前に軽井沢中学校をご覧いただいた皆さんには忌憚のないご意見を書いていたければ、忖度する必要はございませんので、それを参考にさせていただければと思っております。

今、課長の方で申し上げましたけど第1回会議を3月7日に開催させていただきました、多くの皆さんからご意見を頂戴いたしました。

第1回の会議の3月っていうのは、とてもまだまだ軽井沢町は寒かったわけでございますけれども、東京の真冬よりももっと寒いと。

ちなみに、3月7日の1日の最低気温は-7.7℃ということで、そんなに寒かった中で行われたわけですが、軽井沢町は、標高1,000m、ここは950mぐらいですが、緯度に直すと大体北海道の函館ぐらいということでございますので、そういう意識はなくて新幹線1時間で来ちゃう皆さんは、降りて「寒い」とかって言われますが、函館にいるんですよっていうイメージを持っていたら結構だと思いますけれども。

5月になりましたので、ゴールデンウィークは本当に軽井沢町、いい季節で、桜と梅が一緒に咲きますし、今の季節はとてもいい季節で、様々なスポーツイベントも行われています。

今日はちょっと天気が今ひとつですが、外は爽やかな風がありますので、室内でありますけれども休み時間や終わったところ、皆さんの英気を養っていただければと思っています。

第1回の委員会を開催した際にですね、事務局としてちょっと反省しなきゃいけないことが1点ございました。

それはどういうことかと言いますと、しっかりと委員の皆様と共有できなかったことがあったということです。

具体的にはですね、事務局の提出した、例えばコンセプトとか、あるいはアンケート、こういったものは、ご意見を頂戴するため、一応吟味はしていますけれども、一つのたたき台という

ことでご提示していますので、委員の皆様のご経験とか、英知みたいなものを結集して、そして作り上げていくということですので、もう一度委員の皆様にお伝えしますが、アドバイスとか意見等をですね、しっかりお伝えいただければというふうに思っています。

したがって、前回の第1回目のご意見を基にですね、今後のスケジュールとか、あるいはアンケート内容も変えていますし、それを一度委員の皆様にもお伝えしたりして、そこからまたいただいた意見をもとに、さらにバージョンアップしていくということで今日はお示しているのです、そんなところで手直しをしていることをご承知いただければと思います。

本日は短い時間ですけど、よろしく願いいたします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 3. 座長挨拶

【岩井こども教育課長】

続きまして、荒井座長より挨拶をお願いいたします。

【荒井座長】

皆さんこんにちは。信州大学の荒井でございます。

引き続き、皆さんからご意見をいただき、キャッチボールをしながらその意見に真摯に向き合っております。

本日は冒頭、軽井沢中学校を訪問させていただきました。皆さんいかがでしたでしょうか。

先ほど、これもありましたけど、忌憚のないご意見をということですので気になった点や、先生方に励ましの言葉やいろんなご意見をお寄せいただけたらなというふうに思っています。よろしく申し上げます。

今日も限られた時間ではありますが、よろしく申し上げます。

以上です。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 4. 新委員自己紹介

【岩井こども教育課長】

続きまして、新委員の自己紹介に移らせていただきます。
次第の次の、資料1をご覧いただきたいと思います。

4月1日付におきまして、長野県教育委員会の義務教育課長様、学びの改革支援課長様、心の支援課長様の3名が変更となりました。

また、事務局におきましても2名追加がございましたので、変わられた方々から簡単に自己紹介をいただきたいと思います。

誠に恐縮でございますが、その場で結構ですので、お名前・所属・意気込みなどお願いしたいと存じます。

お手元の委員名簿に従い、藤木課長様から順番にお願いしたいと思います。

【藤木委員】

義務教育課長の藤木拓道と申します。
よろしく願いいたします。

私も実は、夜間中学に少し関わってきたことがありまして、思い返すと令和元年だったと思うわけですが、東京にある、確か夜間中学だと思いましたが、視察に行ったことがあります。

そのときの衝撃は相当なものでした。

人間って本当はこんなに学びたいんだなっていうのを肌で感じてきました。

あのときの感動が、今この軽井沢で生まれようとしている、そのことにわくわくしながら、また、責任も感じながら、今日参加させていただいております。
よろしく願いいたします。

【一色委員】

改めまして、こんにちは。

学びの改革支援課長の一色保典と申します。

よろしく願いします。

長野県の第4次教育振興基本計画の一つにもあります、1人の子どもを取り残されないという、やっぱりこの言葉の意味をですね、私達大事にかみしめながらこのオープンスクールのことに関わっていけたらなというふうに思っております。
お世話になります。よろしく願いします。

【向井委員】

こんにちは。
県教育委員会心の支援課長の向井と申します。
よろしくお願いいたします。

本課の政策としましては、人権ということで、特に子どもの人権についてしっかり政策を広めていったり、一緒に学ぼうという姿勢で行っておりますので、これから立ち上がるオープンドスクールも非常に楽しみにしております。
ぜひいろいろ勉強させてください。
よろしくお願いいたします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係職員】

こんにちは。
この4月より配属になりました、こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係の根津彩香と申します。
よろしくお願いいたします。

【桐野軽井沢高校・教育魅力化推進係職員】

こんにちは。
同じく、この4月から配属となりました桐野耕介と申します。
よろしくお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。
なお、本日本田委員および福本委員は所用により欠席のご連絡をいただいております。
【A委員】、【B委員】はオンラインでご参加をいただいております。
【A委員】は会議後半からのご参加となりますのでよろしくお願いいたします。

【B委員】 よろしくお願ひいたします。

● 5. 議事

(1) 第1回軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議のまとめ(案)

【岩井こども教育課長】

それでは議題に移ります。

これより先は設置会議要綱第4条第2項により、荒井座長におきまして進行をお願いいたします。

【荒井座長】

はい、信州大学の荒井でございます。

よろしく申し上げます。

次第の(5)議題をご覧ください。

1つ目に、第1回の会議のまとめということで、事務局で概括したものを配布しています。では、事務局から説明をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい、それでは私の方から説明させていただきます。

事務局の金井です。

よろしく申し上げます。

それではお手元の資料、右上の資料2をご覧くださいと思います。

着座で失礼いたします。

3月7日に実施いたしました、第1回目となる軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議のまとめになります。

出席委員の皆様は記載のとおりです。

会議を公開で実施させていただきました。

15名の方に傍聴をしていただきました。

次に、会議次第について説明いたします。

記念すべき第1回目の会議ということで、ご出席いただいた委員の皆様からお1人ずつ自己紹介、それとこれまでに皆様が取り組まれた内容、また抱負等を述べていただきました。

本設置準備会議の座長へは、荒井座長、副座長へは三和副座長を選任させていただきました。

また、委員の皆様へ、軽井沢町の教育環境について事務局より説明をさせていただきました。

議題につきましては、文部科学省・長野県のご担当者様から学びの多様化学校、そして夜間中学それぞれについてご説明をいただきました。

また、委員の皆様からそれらに対する質問や意見等をいただきました。

詳細につきましては、資料2に記載のとおりまとめさせていただきましたので、ご覧いただければと思います。

本設置準備会議のスケジュール、そしてスクールコンセプトにつきましても事務局より提示をさせていただきます。ご意見をいただきました。

次にアンケートにつきまして、第1回目会議の中でも会議終了後です。委員の皆様からは貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

これまでのご意見等を踏まえ、本日の会議資料として改めて提示をさせていただくという形でまとめさせていただきます。

以上、第1回会議のまとめとなります。

説明は以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

資料2についての説明でした。概括したものですので、ニュアンスが伝わりにくい部分や、事実誤認の部分があるかもしれません。ご確認をいただき修正すべき点があればご指摘ください。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

● (2) 今後のスケジュールについて

【荒井座長】

続きまして、資料3をご覧ください。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

それでは、事務局の方からご説明いたしますので、まず資料3をご覧くださいと思います。

資料3の軽井沢オープンスクール(仮称)設置準備会議等スケジュール案ということでございますけれども、この内容もですね、第1回からいくつか変わっておりますので、その中で開校に向けての取り組みというふうに書いてある一番右側の欄をちょっと見ていただくということでお願いしたいと思います。

前回の(資料の)中では、ちょっと大雑把にしか書いてなかったんですけども、今回の資料ではですね、どんな手順を踏んで開校に向けていくのかという部分のところをですね、もう少し詳しく書いてみました。

具体的にはですね、前回アンケートっていうことでお示ししました内容についてはまた後で議論いただくんですけども、まず、6月中と書いたところですけども、実際に小学生や中学生に向けて簡単なアンケートですけども、それを実施していきたいというふうに考えています。

6月中のすぐ下を書いてある、○児童生徒向けアンケート実施というのは、小学校3校中学校1校ですけども、基本的には授業中に行うということで、先生の方からタブレットに記入するような形でアンケートを実施していくと。

その集計というのは、そういったデータですので、比較的すぐ全部集計できますので、まずその学校にすぐにお返しするということでありますけれども、アンケートを実施した後にこういうアンケートをしましたということも含めて保護者向けということで、児童生徒に関しては基本的には小学校4年生以上、中学生は全員ですが、児童生徒向け実施後に、次の○保護者向けアンケート実施をします。

保護者向けは、基本的に小学生・中学生全員の保護者ということを考えております。

それで保護者の方へも、簡単なアンケートですけども実施し、その集計も比較的簡単にできますので、それをもってその後、6月中旬から7月にかけて、時期はまだはっきりとは決めていませんけれども、子どもたち小学校4年生から6年生、中学校1年生から3年生へ、学校の授業の中で、総合とかって書いてありますけれども、何らかの授業の時間を使って、子どもたちでグループワークをしながら、そのアンケート結果をもとに「自分たちの学校」、「私たちの

学校」、そういったものをどうしていくのかと、前回もありましたように、オープンドアスクールを作るということも目的ですけれども、もう一つは、変えない部分もちろんありますけれども、既存の学校というものも大きく変えていくということをやっていきたいというふうに考えています。

それと、その下の○私たちの学校を作るワークショップ実施。

これは、具体的に現在考えているのは、今回のこの新しいオープンドアスクールの対象者となりうると考えられる不登校の子どもたちや、あるいは発達障害をお持ちのお子さんとか親御さんとか、そういう皆さんを対象に考えているワークショップで、そういった方々からも意見を直接お伺いしたいということでワークショップを開くということ。これが2つ目の○です。

それとは別に、夜間中学に関しては7月から9月、そこに書いてありますようにニーズ調査、具体的に今考えているレベル感はまたあと、資料でお話しますけれども、実施をしていくと。

これは、どんどんどん個別の対応という部分もありますので、実施していくと。

その後、第4回の設置準備会議が開かれる9月22日の月曜日に合わせて、オープンドアスクールを作る、あるいは、学校を変えていきたいと思いますという動きを町民の皆様、あるいは、県民の皆さんに認知してもらおうとやっていく、そういうイベントっていう側面もありますけれども、一般向けのフォーラムの開催を予定しています。

できれば、また後で担当の方からありますけれども、委員の皆様の中でお時間があれば、この時にお話等をしていただければなというふうに思っています。

このような段取りを踏みまして、事業を進めていきたいというふうに考えております。

その部分が、前回のスケジュールと比べてかなり詳しく、具体的に考えているところがございます。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

続きまして私の方から説明させていただきます。

会議の日程につきまして、第1回目の会議で委員の皆様からご指摘ありましたとおり、日程ということで、全て確定をいたしました。

本日改めて説明させていただきます。

まず時間につきましては、全て15時から17時ということで予定をしております。よろしく願いいたします。

それでは資料3に記載されている部分を読み上げて申し上げます。

第2回、5月22日ということで、本日にあります。

第3回、7月14日月曜日。場所は軽井沢発地市庭で開催をいたします。

続きまして、第4回、9月22日月曜日。軽井沢町中央公民館の会議室で実施をいたします。

先ほど教育長から説明ありましたとおり、この日はフォーラムを同日開催ということで計画をしております。

続きまして、第5回、10月30日木曜日になります。こちらにつきましては、会場現在では未定ということで、確定しましたら直ちにお伝えしたいと思います。

第6回、年を挟みまして、令和8年1月28日の水曜日になります。こちらの会場も、現在未定ということでよろしく願いいたします。

予定されている最終回ですね、第7回、令和8年3月5日の木曜日になります。会場は未定ということでお願いいたします。

なおですね、こちらの日程等につきましては場所が確定しましたら直ちに町の公式ホームページへの掲載、そして、毎月1日に発行される広報紙「広報かるいざわ」等でも、町民の方を初め、多くの方にご覧いただけるように周知してまいります。

よろしく申し上げます。

説明は以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

ただいま資料3の説明をいただきました。

前回と比べまして、スケジュールが明確になっている部分と、アンケートおよびワークショップの実施、夜間中学に関するニーズ調査の実施、一般向けのフォーラムの開催などが記載されています。ぜひスケジュール確保をお願いします。

今年度の年間スケジュールに関して、ご意見等ありますでしょうか？

【C委員】

すいません。

聞き漏らしているんだと思うんですけど、9月22日のフォーラムも15時からですか。

それとも、フォーラムはもっと早い時間に開催されるというふうなことですか。

【宮本教育長】

はい。

詳細はまだ決まっていませんけど、今のところ考えているのが、この会議は15時からですので、その前の13時から15時までの間というふうに今のところは考えております。

【C委員】

わかりました。
予定を押さえます。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。
他にはいかがでしょうか？
はい、では**【D委員】**お願いします。

【D委員】

すいません。**【D委員】**です。
今同じ質問だったんですけども、それ（フォーラム&ワークショップ）がおそらく13時からだろうというお話でした。
次回7月は、私ギリギリに地方から来るんですけども、さっき資料見てると、風越学園の見学が実際に入っているっていう。
こういうのがある場合、ちょっと残念ながらこの間見させていただいたんで風越いけないんですけど、本会議の前に何かしらこういう見学がある場合っていうのは、この予定表の中に含めていただけると、ちょっと予定が組みやすくなるかなと。
もし、そういうのが今後もあり得るようでしたら、早めに教えていただけるとありがたいです。お願いします。

【荒井座長】

大変失礼いたしました。
現状では、次回7月14日の15時からの会議の前の風越学園の見学、そして9月22日ということで、それ以外のご予定は今のところいかがでしょうか。

【岩井こども教育課長】

すいません。
事務局の方の部分で、事前にわかる部分はなるべく早く（お知らせ）したいと思います。
今のところ、座長が言ったとおり、7月の見学と9月22日のフォーラムが事前にあるというのが今のところ予定ですので、恐れ入りますがよろしく願いいたします。

【荒井座長】

よろしいでしょうか。傍聴等にいられている方もぜひスケジュールを確認ください。よろしく願いいたします。

● (3) アンケートについて

【荒井座長】

続きまして、アンケートの実施に関してです。

前回、アンケートの実施についてご意見いただき、その後メール等でやり取りをさせていただき現時点のものがお示ししたものです。資料4をご覧ください。事務局から説明をお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

はい、よろしく願いいたします。

5ページの資料4をお願いいたします。

今、荒井座長からも申し上げていただいたような形で、第1回の会議の学びの多様化学校アンケートにおきまして、委員の皆様からですね、ご意見をいただき事務局で議しまして、趣旨から内容までを改善いたしました。

現在ある、既存学校の学校作り並びに今後設置を予定している今回の軽井沢オープンスクールをより魅力的な学びの場とする趣旨として、児童生徒保護者へアンケートをとることとし、4月下旬に委員の皆様にも再度メールでご確認いただき、ご意見を反映させていただいたものとなっております。

まず初めにですが、再度ご意見をいただきました、9ページの資料4をご覧くださいと思います。

委員の皆様からご意見をいただきまして、今回のアンケートにおおよそ反映させていただきました。

その中で、反映させてないものにつきまして、ご説明させていただきます。

初めに、趣旨の中の一番下ですが、「自分たちの学校」を「自分の学校」へ修正は可能かのご意見でしたが、ここは事務局といたしましても一番議論いたしました。

確かに委員のご意見があるように「自分たち」とすると、主体性や当事者性というものが少しぼやけることもございますが、町といたしましては、あなたもまわりの人も、自分らしく学び合うことができ、自分たちが望む学校を自分たちでつくっていける「私たちの学校」を目指すため、他者との協力や協調性についても考えていただくこととさせていただきました。

さらにですね、他の委員さんからのご意見により、「私たち」とさせていただきました。

「自分たち」ではなく、「私たち」へ文言を変更することで、アンケートの3. 内容のタイトルを目立たせること、また、リード文の差別化を図り、当事者意識がより強調され、自分ごとで考えること、合わせてみんなで考える学校作りとなり得るため、「私たちの学校」とさせ

ていただきました。

次にですね、方法になりますが、こちらのご意見ですけど、生徒の回答の際に、Google ログインを必須とすれば、学校や学年の入力を減らせるのではとのご意見でしたが、ログイン必須とすると個人がどうしても特定されてしまいますので、匿名として率直な意見をもらうこととさせていただきます。

続きまして、内容ですが、上から2番目のリード文の「私たちの学校」を目指していきたいと考えていますが、何となく曖昧なので、「私たちの学校」へ変えていくことを目指しているとした方が理解しやすいのではとのご意見ですが、変えていくことを目指すとなると、少し言葉が強く、1人歩きしてしまうのではないかということ事務局で考えまして、既存のですね、学校の良いものは継続していくという意味でも、文言は変更しないこととさせていただきます。

続きまして、同じく内容のところのですね、上から7番目にございます性別の件で、性別を聞くことも必要なのではないかとのご意見でしたが、分析等を行うことや、男女による回答の偏り等を見極めることもいたしませんので、性別は聞かないこととさせていただきます。

その下ですね、設問のいいなと思うものの、ものに偏っている点に意図はあるのかに対しまして、意図は特段ございませんので、相対的に捉えてもらえるように、ことやものとして、例に場所の例も追加させていただきました。

また後ほど申し上げたいと思います。

続きまして、その下になります。

目的の明確化につきましては、趣旨をさらにわかりやすくしました。

また、保護者向けにつきましては、趣旨をアンケート実施の通知文に入れ、わかりやすくさせていただきます。

最後にですね、一番下の全体に対してということで、趣旨の内容が、アンケートの内容の中で確認できないため、内容の前文に再度趣旨を入れた方が良いのではに対しましては、児童生徒向けは先生から全体の流れをしっかりと伝えることといたしますので、このままで実施したいと思います。

保護者向けにつきましては先ほども申した通とおりに、アンケート実施通知文へ入れ、わかりやすくさせていただきます。

5ページの方へお戻りいただきたいと思います。

以上のことを踏まえましてですね、児童生徒様は趣旨を1のように変更をさせていただきます。

おります。

朗読させていただきます。

今後の軽井沢のよりよい学校作りに活かすために、町内の小中学生や保護者にアンケートを実施し、軽井沢町の学校（東部小学校、中部小学校、西部小学校、軽井沢中学校）や今後設置を予定している軽井沢オープンドスクール（仮称）をより魅力的な学びの場とするということにさせていただきます。

続きまして、変更しましたが、3. 内容のタイトル名を「私たちの学校」とさせていただきます。

続きまして、6 ページをお願いします。

こちらの方ですね2の設問内の問3、問4、問5で下線部分を変更しております。

先ほども申しましたが、今あるものでいろいろいいなと思うことや、いいなと思うものを記入してくださいという形にさせていただきます。

また、例のところに場所の部分ですね、図書館とか体育館、校庭等も入れさせていただきます。

また、問6の方に、「私たちの学校」を作っていくためにというのを追加させていただきます、その部分の追加となっております。

児童生徒の一番下ですね、「この結果は～」の部分につきましても、変更させていただきます。

続きまして、7 ページの方をお願いしたいと思います。

こちらの方、保護者用につきましても、先ほどの児童生徒とほぼ同じですが、8 ページになります。

8 ページの、設問3、問7になりますが、こちらの下線部分になります。

こちらの方を加えさせていただきます、もっとあればいいなと思うサポートや支援等（空間・時間・場所・ツール）というものも追記させていただきます、こちらの方が今のところ事務局案とさせていただきますところであります。

説明は以上となります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

皆さんから趣旨や具体的な質問について、子ども目線で考えた場合、窮屈感を感じているかもしれないなど、ご意見をいただきました。そして、さまざまなご意見を踏まえて今回は、無記名で実施することになっています。

いかがでしょうか。

はい、では【E委員】お願いします。

【E委員】

失礼します。【E委員】です。

当初のアンケートと比べるとだいぶすっきりしているなという印象なのですけども、趣旨もだいぶ変わりましたね。

登校できている多数派の子どもの意見と発達の特徴を抱えたり、また集団に馴染みにくい子どもの意見と、やっぱり違うということも考えなければならぬのではないかなと思うのですね。

例えば、あったらいいなと思われることなども、ワークショップでやるってということなのですが、その際にも、不登校の子どもが不在のままで行われてしまうということも懸念材料だなというふうに考えます。

前回、【F委員】からもおっしゃっていたように、一番聞きたいのは発達障害の子や不登校の子(の意見)であり、またその親御さんも悩んでいるっておっしゃっていたと思うのですね。

このような学校を「私たちの学校」とするのであれば、軽井沢町の小中学校全てをこのような学校にするのではないかって子どもたちは捉えるのではないかなと思うのですけども、確かにそうあるべきではあるのですが。

じゃあ、学びの多様化学校との違いは何かっていう、そういう議論をしていかなければならないなと思いました。

以上です。

【荒井座長】

今、所感をお伝えいただきましたが、具体的な提案としまして、ワークショップ等を属性別に実施するのではなく、一緒にやるべきだというご意見ということでしょうか。

【E委員】

みんなというのは、不登校の子も含めてですか。

【荒井座長】

はい。

【E委員】

いや、それは無理だと思うので、実際に不登校の子どもたちはどういう学校を望んでいるのかということを我々としては知っていかなければならないのではないかなと。

前のアンケートは、そういう趣旨もあったのではないかなと思うのですけれども。

だから、不登校の子どもたちの気持ちも聞きたいのです。

これでは聞けないのではないかなと思うのですが。

【荒井座長】

その辺、事務局から改めてニュアンスをお伝えいただけますか。

【岩井こども教育課長】

すいません、ご意見ありがとうございます。

先ほども、資料3のスケジュールのときに教育長の方から説明がありましたが、6月中旬から7月中旬にかけて、ワークショップを各4校やっていきますが、それとは別に、先ほどもちょっと説明しましたが私達の学校を作るワークショップっていう意味合いも込めまして、不登校の子や発達障害の子も含めて、そちらの方は別で、しっかりと保護者も含めたりとか、どういう形ってのはこれから決めていきますけど、しっかりとそういう不登校の子や発達障害の子たちの意見も必ず吸い上げながら、どういったものが一番理想なのかとか、どういった意見があるのかっていうことをちょっと聞きたいという形の場面はしっかりと取っていききたいなというふうに考えております。

【荒井座長】

ありがとうございました。

いかがでしょうか。

【E委員】

別にそういう調査をするっていうことでしょうか。

【岩井こども教育課長】

そうですね。

調査的な、ニーズ的なものも含めて、しっかりと意見を吸い上げていきたいという形には考えております。

【E委員】

例えば、教育支援センターに通っている子どもたちにアンケートをとったり、また、そこにも通っていない子がいるならば、家庭訪問で意見を聞いたりということでしょうか。

【岩井こども教育課長】

そうですね。

【E委員】がおっしゃるとおりになるんですが、どこまでそこを吸い上げられるかっていうのは、ちょっと申し訳ないですが、学校側と我々教育委員会もじっくりと話し合いながらですね、なるべく全員に行ければ一番いいんですが、そこを最大限見越した中でこのワークショップ周知徹底もしながらですね、やっていければ一番いいかなと思います、またその手法はで

すね、いろいろと我々も考えていきますが、もし委員さんたちの方でこうやった方がいいよっていう意見があれば、逆に言うと教えていただけるとありがたいかなという部分であります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

では関連することでありましたら。

【D委員】、お願いします。

【D委員】

確か、前回アンケートへの内容意見で、私の意見に対してご返答いただいていたと思うんですけど、私達、夢パークで不登校の子どもたちの居場所「フリースペースえん」を作るときに、川崎市教育委員会から任意団体だったフリースペースたまりばに、当事者の声を拾ってください、当事者の声を教育委員会としてダイレクトに聞くのは、結構いろいろ難しいので、むしろ民間団体であるあなたたちが、不登校親の会などの協力を得て、当事者の声を拾ってくださいという委託を受けて、そうやって聞いてきたんだ、100人ぐらいの子どもたちの声を。というのを、確かアンケートへの意見として書いたと思うんですが、今のご返答だと、なんかやっぱりワークショップって言っても不登校の子が集団ワークショップに出てくるって結構ハードル高いし、なんか地域で、長野県内あるいは軽井沢周辺で民間の不登校親の会とかフリースクールとかの協力を得て、できるだけ安心できる人に対して意見を言える環境整備というか、これはやっぱりこの学びの多様化学校を整備していく上でも、公立学校を変えていく上でも、かなり必要なプロセスかなって思うんですね。

だから、何かやっぱり学校に行きづらい子たちが安心できる人間関係の中で、ヒアリングできるような、アンケートなのか、何か個別に対話ができるような、場づくりっていうのはやっぱり丁寧にやっていたらありがたいなって思いました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

前回、おそらく不登校のお子さんあるいは発達特性のあるお子さんに対してアンケートを実施するという提案に対して、他の公立学校も変わらなくてはいけないというご意見も頂戴し、全ての子どもたちにアンケート調査を実施する運びとなりました。このことは、不調校や発達特性がある方に実施しないという意味ではなく、むしろ委員の皆様にご協力をいただいて、より丁寧に話を聞く場を設けていく、というニュアンスとなります。

【宮本教育長】

はい。荒井座長の言ったとおりでございまして、まず基本的にはアンケートはやるんです。そのアンケートは、1週間ぐらいの程度の期間をやって、その当日授業のところにいなかった子については吸い上げていくっていう部分がある程度思っています。

それ以外に、軽井沢町は小学校3つと中学校1校しかないので、スクールサポーターという臨床心理士の資格、公認心理士の資格を持った者が4名いますので、その方々が個別に学内に入っていますので、そこからの意見とかを、個別にアンケートできてない子に対しては個別の意見を聞くっていう方法プラス、今ここにあるように、来れる方は集まっていただいて、お子さんあるいは保護者の方からもお話を聞くというようにいくつかの段階を踏んでご意見を頂戴するっていうことを今のところ考えているところです。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

やれることは全部やるという姿勢かなと思います。

【C委員】

今、不登校の子ですとか、発達障害の子に対する軽井沢町の子に対する、そういう教育長がおっしゃったようなヒアリングっていうか声を聞くというのは、進められればなと思うんですけども、ただ一方で、不登校の子とかは、1人1人状況は違うっていうことはあるにせよ、ただこれだけ全国ほとんど同じような学校が多い中で、学校行けなくなっている理由も結構地域性があるようなないようなところもあると思うので、例えば委員でもあるカタリバの今村久美さんの団体に協力してもらおうとか、もしくは西野さんのところとか、過去のいろいろな調査もあるので、そこら辺も参考にしながら、そういった子たちがどうして学校に行けなくなったのか、行きたいと思わないのかっていうようなことも参考情報としては使えるのではないかなというふうに思っています。

当然、町の子どもたちの声を聞く、保護者の声を聞くってことに加えて、それはあの資料として出せるんじゃないかなと思っています。

もう一つ、アンケートのことですけれども、趣旨のところにもあるように、軽井沢町の学校がより魅力的な学びの場となるようにっていうことが書かれているのは大きな変化だなとは思っています。

その上で、まず細かいところからいくと、Google フォームでやるのは本当に集計は便利だなというふうに思います。

一方で、ルビが振れなかったりするっていうふうなことを考えると、小学生は意外に結構紙の方が良かったりします。

例えば、「私たちの学校を作る」アンケートの「私」って、6年生で習う漢字で、4年生5年生読める子も読めない子もいたりとか、中学生でもまたこれが読めないってなったときにもうアンケート答えたくないっていうふうになる可能性もあるので、意外に、紙でちゃんと総ルビを振って、子どもたちに対してもやるっていう方が答えやすかったりするのではないかなというふうに思いました。

6 ページのところですがけれども、問3と問4が、ちょっと僕も一見読んで、これ何が違うんだっていうふうに迷いました。

「今あるもので」が問3はある、問4はないってこと。あと、「いいなと思うことやいいなと思うもの」っていうのも、ちょっとこれ読みにくいっていうふうに、違いがわかりにくいなというふうに思いました。

例えば問3と問4は一つにしてしまっただけで、学校にあったらいいなと思うものとかこととか人とか場所とか時間っていうふうな形で、ものこと人場所時間というふうな形で出してあげる。そのときに例は、非常に誘導的にもなったりもするので、例を出した方がいいのか、出さない方がいいのかっていうのはちょっと迷うなというふうに思いました。

その上で問5も、ない方がいいなと思うものとかこととか人とか場所とか時間、ルールもそうかもしれません。

そういうふうに、ものこと人場所時間ルールみたいな形でいれてあげて、例は、もしかしたら担任の先生から口頭で出していただくとか、そういうようなこともある方がいいんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

はい、お願いいたします。

【G委員】

ありがとうございました。

内容等というよりは、分析とかは今回しないっていう方針だと思いますが、できれば軽くはして欲しいなと思っているところで、私ずっと教育データを扱って、アンケート取って分析するっていうのをやっているんですけど、やっぱり目的が決まっていなかったりとかすると、結局「何かこういう意見がたくさんあったね。」で終わってしまうと思うので、それがたくさんあったで終わらせないような、どういうふうな分析するかとか、それをどういうふうに活かしていくのかってことをあらかじめ設計していただけるといいのかなと思っていました。

あとは、先ほど紙で（実施）という話もあったんですが、紙でもいいと思いますし、Google フォームでやるにしても、教育支援センターとか不登校の子にも、もしこういうふうなのを実施するのであれば、URL を個別にするだけで全体のご意見と、教育支援センターとかに配った意見って Google 上で分けられると思うので、そういう簡単な工夫とかするだけでもいいのかなと思っていて。

そうすると不登校の意見と一般の学校の子で答えた意見がわかれると思うので、そういう細かいこととかもしていただけるといいのかなと思っていました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

オンライン参加の【B委員】、いかがでしょうか。

【B委員】

ありがとうございます。

ごめんなさい。今日もオンラインでしか参加できなかったんですけども、ちょっと全体的にマイクの音がこもりがちで、全部理解できているかどうかわからないんですけど、今このアンケートについての議論をなさっているというふうに理解していますので、このアンケートの内容について些末なことかもしれませんがコメントさせていただきます。

このアンケートの中で、ある程度言語化能力の高い子がこの質問の事例に引っ張られずに答えられやすいものになっているように、第一印象としては感じました。

特に、第3問のいいなと思うことの事例のところとか、第4問のあったらいいなと思うものの事例のところ、確かにイメージとしてはこういったものがあつた方が答えやすいなと思うんですけども、よく子どもたちと話していて、学校の中で一番好きなのところは何かとか、不登校になった子どもたちが嫌だと思うものは何かというと、人間関係とか、大切にしたいのは友達との自由な時間とか、何かそういった学校として意図して設置していない部分の中で見えてくる余白の部分を大切にしていたり、また学校の中で実はみんなが気づいていないヒドゥンカリキュラムみたいなのところが嫌だと思っていたりというところがあつて、そういった部分こそ、もしかすると教員の方々や我々大人が気づくべきものなのではないかと思ったりします。

なので、この事例のところというのをどのように示すのかというところは少し難しいなと思うんですけども、例えば先生方が、このアンケートを書く前に、これも引っ張られるかもしれないんですけど、もしクラスの中で対話的にワークショップというか、そこの中でグループで話したりした上で生徒が書くとかそういう形がいいのかなというふうに思いました。

小さなことですが、以上です。

【荒井座長】

貴重なご意見ありがとうございました。

事務局に確認ですけども、子どもたちに対しては、教室の中で一定期間、時間をとって実施する前提でよろしいですか。

【岩井こども教育課長】

はい。荒井座長がおっしゃるとおりの方向でやりたいなとは思っております。

【荒井座長】

となりますと、これについては「正解」はない論点となります。具体的な部分がない方が書けるという評価と、示さないイメージが湧かないということの両面があるかと思います。また、教員が例示をしてインストラクションをしながら質問に答えてもらう場合もその行為にかなりの回答が影響される可能性ももちろんございます。

座長としましては、先生方にできるかぎり負担をかけたくないという思いもあります。

【H委員】

こういうのはね、例えば1回この学校のどっかのクラスを借りて、やってみればいいんですよ。実際に。

実験的にやってもらって、その結果見て直そうという、そういう方法もありますから、1回で完璧なのを作るってなかなか難しいので、どっかお借りできればそういうことをやってみてもいいのかなと思います。

【荒井座長】

他には、皆さんいかがでしょうか。

【F委員】

すいません。これ授業中にアンケートをするってことですが、当日アンケートの日に欠席した子や、対象者の人は出てこないと思うんですけど、そういう子にはワークショップの場で意見を聞く感じですか。

それとも、後日何らかの形でアンケートをとりますか。

【岩井こども教育課長】

当日欠席の場合はですね、1週間程度期間をもって、来れる日にやりたいと思いますが、それでもだめな場合は、何なりの工夫はしたいと思います。

また先ほども言いましたが、なかなかずっと来れない子、不登校の子とか、発達障害の子に対しては、個別で、うちの方はしっかりとSS（スクールサポーター）の方で当たっていききたいなどは考えております。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。ここである程度の合意が取れた場合、実施予定について事務局はどのようなことを考えられていますでしょうか。

【岩井こども教育課長】

はい。こちらの第2回設置準備会議を受けまして、おおよその部分、修正の部分等、また事務局の方で荒井座長とも話しましてですね、最終的な部分が固まり次第ですね、できましたら

先ほどのスケジュールどおり、6月の、できれば上旬中旬ぐらいにアンケートをしたいと考えております。

【荒井座長】

紙でやるのかフォームでやるのかは、作業量が全く違うものになります。他に何かお気づきの点はございますでしょうか。

【J委員】

はい、すいません。

それこそ本当にどっちがいいかというのは難しい議論かなと思うんですけど、特に問3のいいなと思うところというのは、いくつも可というふうに書いてあるところからすると、フォームを使って端末でということからすれば、ある程度のところはプルダウン化してチェックをつけられるようにして、その他思いつくものをかけるというスペースがあると両方のものが少し担保できるのかなというふうには感じました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

【K委員】

先ほど来、アンケートの事例についてどうしたらいいかという話がありましたけれども、当該の学校の校長として今考えているのは、私としてはあまり抽象的なこういうものはなしにして、1回アンケートをとって、そのデータの中身について精査して、グループワークに繋げていけたらいいなというふうに思っております。

要するに、主体的っていうものをちょっと狙うとするならば、私達軽井沢中学校も変わらなければいけないというふうに前回言われておりましたので、そういった部分を子どもたちと教師とともに考えていけたらなと思います。

ですので、できたら個人的には抽象的なものはここに入れずに、本当に子どもたちの生の声を最初に聞いて、それをグループワークの中で深化していく、深めていくっていうような形がとれたらいいなというふうに思っております。

また事務局の方とも相談しながら進めていけたらなと思いますのでよろしくお願いします。
以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

では具体例を示さないというご意見ということでもよろしいですか。

このあたり、【L委員】、いかがでしょうか。

【L委員】

本当に、お話を聞く事に悩ましいなと思って聞いております。

確かに、子どもが書くことを考えると、具体例があるとイメージが湧きやすく書きやすいけど引っ張られてしまうということもそのとおりですし、先ほど荒井座長からお話されたように、答えがないことだなと思っておりまして、そこからすると、1回お試しでやってみて、そこから改善していくっていうのが、お手間にはなってしまうんですけども、それも一つのステップだなと思いますし、やはり先ほどもお話しされたようにアンケートをもとに深化させていくっていうところでより深めていくということもなるほどだと思います。

すいません。結論がどういったところかっていうところで、私のほうで回答を持ち合わせてはいないんですけども。一緒に考えていければと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今のところ私として、今回いただいたご意見で少し考慮したいなと思っている部分が、紙とフォームについては、総合的な判断で基本的にはフォームにしたいと思っております。ただ、これは紙での回答を排除するという意味ではありません。

また、先ほどアンケートの結果を踏まえてグループワークやワークショップに繋げていくというアイデアはとても素敵なことだと思います。

もう一点は、質問項目について、便宜上問3と問4は統合するほうが良いと思っています。

あともう一点、保護者アンケートへは、保護者として望むことという設問を用意させていただいております。

この辺りについてのご意見もいただけたらなと思います。

【D委員】

今まとまってないんだけど、その保護者のとこじゃなくてその前の段階で、先ほど【B委員】（今村委員）が言われたことも大事だよなと思っていて、これ読んでいると学校に今あるものもあつたらいい、ない方がいいとある。

もちろん、学校作りだからなんだけど、でも子どもたちが今学校生活を通じて何となく不快に感じている、何となく苦手だ、イヤだ、困ったって感じていることを自由に書く欄っていうのはないのかなっていう。

やっぱり、ターゲットが、狙いが絞られているから、学校にあつた方がいい、ない方がいいみたいにして聞いているけど、もっと違うところに子どもたちの悲しさや苛立ちや持って行き場のないモヤモヤっていうのはあるのかなっていうと、どっかも1項目、自由に「今生きている私が感じている何か」を書ける欄があるといいかなと思うんだけど。

【荒井座長】

ありがとうございます。

例えば、問6はどちらかというところポジティブなアイデアがあればぜひお寄せくださいというニュアンスですけれども、その前後に、例えば「今学校で困っていることはありますか」という彼ら彼女らの困り感を自由に書いてもらうことも一案化と思いました。

【D委員】

はい、なんか入った方がいいなっていう。

学校でって入れるのか入れないのかって、ちょっと悩むところだけれど、なんか今生きているときに、さっき【B委員】から出たような、人間関係のこととか何とかっていう常にモヤモヤしている今を生きている子たちの、そこら辺を吸い取っていけないと、ただ学校のハード・ソフト整備って言っていると、すっぱり抜けちゃう部分が出ちゃわないかなっていう。

聞きとるのは難しいけど、何かあるといいなというふうに思いました。

【荒井座長】

ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

では、時間の関係もありますので、今いただいたご意見を踏まえて再度提案させていただきます。本日も欠席の委員に対してもコミュニケーションとらせていただいて、最終確認等をさせていただきますという形でよろしいでしょうか。

はい。ではそのような形でご理解いただけたらと思います。

● (4) 夜間中学ニーズ調査について

【荒井座長】

続きまして(4)夜間中学ニーズ調査についてです。

冒頭、【E委員】のご厚意で机上にお配りしたものがございます。これについてご紹介いただけますか。

【E委員】

はい、失礼します。

長野県には夜間中学が今、まだありません。

なので、なかなか見学に行くにしても、遠くまで行かなければならないということで、ちょっとでも夜間中学の内容というか夜間中学って何っていうところを知っていただくために、DVDを見ていただいたら少しでもわかっていただけるのではないかと考えて持っていました。

2018年のドキュメント映画なので少し古いかもしれませんが、今の夜間中学の状況をちゃんと表現していると思いますので、ぜひ1回見ていただいて、イメージを作っていただけたらありがたいなと思います。

よろしく願いいたします。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。それでは資料5をご覧ください。

事務局の方から説明をお願いします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

はい。

ではよろしく願いいたします。

事務局の根津です。私から説明をさせていただきます。

夜間田中学のニーズ調査についての説明ですけれども、資料としましてお手元の10ページ、11ページの資料5、それから12ページ以降の資料6がその内容となっております。

まず、10ページの資料5についてご覧いただきたいと思います。

前回の第1回設置準備会議のところでは、夜間中学アンケートという形で提案をさせていただいたんですけれども、皆様からいただいたご意見をもとに再度検討いたしまして、夜間中学の場合は特に特定の方を対象に個別に聞き取りを行いまして、入学の意思・希望を確認するといったことが非常に重要になってくるのではないかとということで、アンケートも含めて全体を通してニーズ調査ということで位置付けることといたしました。

では、1. 調査概要から説明をさせていただきます。

(1) 趣旨については記載させていただいているとおりです。

(2) 調査対象に関してですけれども、①から③までございまして、特定の方、それから不特定多数の方の両方を対象としたいというふうに考えております。

このうち①のところで公立夜間中学のニーズがあると想定される方、それから②の方で、今述べた①の方を日頃支援している方というふうに書きましたが、この①と②を特定の方、それから③のその他調査に協力いただける方、こちらを不特定多数の方というふうに捉えております。

では、続いて(3) 調査方法になりますけれども、こちらについては特定の方、それから不特定多数の方の調査方法を分けてそれぞれ二つの方法を想定しております。

まず①の特定の方を対象とした調査のうち1番目の項目につきましては、資料にありますけれども、町内を中心に公立夜間中学のニーズがあると想定される方の繋がりが想定される関係団体及び関係者にアポイントメントを取った上でニーズがあると想定される方および支援者への聞き取りを個別に行っていくというふうに考えております。

既に関係団体それから関係する方については検討を始めているところです。

資料にも具体的に挙げさせていただきましたけれども、それらの皆様と順次アポイントメントを取った上で聞き取りを行っていきたいというふうに考えております。

また、2番目のスクールサポーターによる聞き取りに関しては、先ほどもスクールサポーターが話題に上りましたけれども、既に卒業しているけれども、スクールサポーターが学齢期に関わっていた方もいらっしゃいますので、そういう方の中でニーズがありそうな方に個別に聞き取りを行っていく予定であります。

それから、②の不特定多数の方を対象とした調査につきましては、資料にも具体的に挙げさせていただいているんですけれども、多数の人の出入りが見込まれる公共施設、それから商業施設等へのアンケート用紙の設置を行うということがまず一点、それからチラシを掲示して、掲載されているQRコードからアンケートに回答してもらおうということ、また、軽井沢町のホームページ上にも案内を掲載しまして、アンケートにアクセスしていただくということを考えております。

続いて、(4) 調査期間についてですけれども、こちらについて①の特定の方を対象とした調査については、先ほどもご説明をしましたがけれども、5月の末より聞き取りに向けた準備を進めていきます。

こちらについては、9月の末で一度中間のまとめを行いますけれども、1の方に複数回聞

き取りを行ったり、町内で調査を行った結果、対象を町外の方に広げたりすることも想定されるため、10月以降も継続して行っていくということも視野に入れて進めてまいります。

また、②の不特定多数の方を対象とした調査については、7月の第3回設置準備会議後から約2ヶ月間程度を予定しております。

では、続いて最後の2調査内容のところになりますが、先ほどもお伝えしましたけれど、第1回設置準備会議ではアンケート（案）という形で提案させていただいたんですけれども、こちらについては、現在改めて検討を進めているところです。

こちらに関して、続いて11ページの資料5夜間中学アンケート（案）についての意見と事務局対応のところをご覧ください。

第1回設置準備会議およびそれ以降に委員の皆様より会議で提案させていただきました夜間中学アンケート（案）についてご意見をいただきました。

実施方法、調査方法、それから内容ということでご意見をいただいております、いただいたご意見、それからそれに対する事務局の対応をまとめさせていただきました。

本日は、具体的なアンケートの中身については提案しないんですけれども、委員の皆様からいただいたご意見については、今後アンケートを作成する際に反映させていただきます。

本日この後も含めて、今後ともご意見をいただけますと幸いです。

また、続く12ページからになりますが、あわせて両面で4ページ分ある資料6ということで、長野県が令和5年7月から9月にかけて行った、県内における夜間中学のニーズ調査のアンケートの内容になります。

当事者本人の方に向けたもの、それから、保護者や支援者に向けたものと両方あるんですけれども、こちらも元にしなから、町としてのアンケートを作成していきたいと考えております。

軽井沢町の特徴としましては、多様な背景の方を持つ方がたくさん集まっているということもありますので、既にいただいているご意見の中にもありましたけれども、多言語への対応ですとか、ルビ振り等も含めて、誰にとってもわかりやすい内容にするということと、それから情報を必要としている方に確実に行き届くように関係各所と連携をしながら調査を進めてまいりたいと思っております。

まだ時間がありますので、申し訳ございませんが11ページの資料5のところに戻っていただきたいと思っております。

先ほど、具体的にいただいたご意見、それから事務局の対応をご説明していませんでしたの

で、ちょっとここで具体的に述べさせていただきます。

まず実施方法の調査期間については、できるだけ期間を長くするという事、それから公共施設はもちろんだけれども、商業施設等にも設置するのがいいのではないかというご意見でした。

こちらについては、先ほどもお話ししましたが、まずアンケートを約2ヶ月間行ったところで一度中間のまとめを行い、その後も該当者がいる場合は個別で継続して調査をしていくということ、また人の出入りの多い場所にアンケートを設置していく予定であります。

調査方法については、関連施設がどういったものになるのか、足を運ぶ必要があるということ、またQRコードで回答できない方への配慮、支援者理解者へのアンケートもということでご意見をいただいておりますけれども、この関連施設についても、現在想定される場所を具体的に書かせていただきました。

また、町の民生委員の方にも該当者の調査を依頼しているところです。

チラシの掲示だけでなく、紙のアンケート用紙の設置も行っていくという計画であります。

また、先ほどの県のニーズ調査のように本人だけでなく、支援者、保護者へのアンケートも作成していく予定です。

内容については、形式の検討ということで、多言語への対応、ルビ振りということでご意見いただいておりますが、こちらについても現在のところでは3カ国語への対応、それから総ルビの方も行っていく予定です。

具体的な質問方法についても、いくつかご意見をいただいておりますけれども、それにつきましては、「夜間中学に通ってみたいと考えた理由は」という質問をするということ、また、項目について選択式で回答してもらうという予定であります。

また、最後に自由記述欄を設けることで、ご意見や期待すること、通ううえでの不安があれば言ってくださいという形でどうかなというふうに現時点では考えております。

いただいたご意見等をもとに、改めて事務局の方でも検討を進めまして、具体的なアンケートの内容については、次回の第3回設置準備会議で提案させていただき、ご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

以上で事務局からの説明を終わりにします。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今、【A委員】が入室されているということで、声は聞こえますでしょうか。【A委員】いかがでしょうか。

【A委員】

遅くなってすいません。よろしく申し上げます。

【荒井座長】

はい、よろしく申し上げます。

ありがとうございます。

基礎的な情報として、「学習ニーズ」と「入学ニーズ」というものがあります。「学ぶ」ということでもそのことは、「公立」の「夜間」の学校で学ぶことと必ずしもイコールではない場合もあります。

また、「潜在的なニーズ」と「顕在的なニーズ」というものがあります。既にご本人が自覚をしているパターンと、関わることによって初めて自覚をし、そのことが社会的に構成されていくこともあります。

今、事務局の方から説明いただいたように、一つは2段階方式といいますか、まず一旦実施をし、中間まとめをして、皆さんに共有をしてまいりたいというのが一つの提案です。

二つ目は、多言語対応をできる限りということで、ルビを振るなど、あるいは昨今では様々なAI等も積極的に活用ください。

さらに、ぜひポスター等も作成することを検討ください。こちらはいわゆる方法についてです。

続きまして、内容についてです。参考資料として、令和5年7月に長野県の教育委員会が全県の方々を対象として実施したアンケートを用意させていただいております。基本的にはこちらの内容を踏まえて、今後作成してまいります。

とりわけ方法ということに関しては、10 ページ目の中段以降にあります。こういったところに配る予定であるということや、聞き取りを予定しているというふうなところがあります。例えば、社会福祉協議会やハローワーク、児童相談所などについてもご検討ください。

もう一つは、内容について、こういった部分も必要ではないかなどご意見ください。

【E委員】が一番お詳しいかと思いますが、最初にご意見をいただけたらなと思います。

【E委員】

はい、ありがとうございます。

お願いが2つと、質問が1つございます。

まず方法についてのお願いですけれども、先ほども申しましたように、夜間中学って何ってことを軽井沢町の方々は、知らないと思うんですね。

なので、それがわかるようなポスターとかチラシとか、文部科学省が出していると思います。それをいただいたりして、コンビニ含めなるべく多くのところにそれを掲示または、アンケートと一緒にチラシを置いていただけたらありがたいなと思います。

そして、内容についてのお願いが、県教委がされたアンケートの18 ページの下から3行目、「中学校にあまり通っていないから」という理由があったと思いますが、通っていても形式卒業生っているわけなのでですね。

例えば、毎日行っていたけれども、発達障害などで授業がさっぱりわからなかったという子どももいるかもしれない。

それからいろんな理由で、やっぱり学び直したいっていう方もいらっしゃるかもしれない。だから、その形式卒業生＝不登校であるっていうことではなくて、その辺は幅広く捉えていただきたいなと思います。

だから、「十分学ぶことができなかった方」のほうがいいのではないかなと思っています。

あと質問なんですけれども、万が一これニーズ調査をやった中で、そのニーズがないっていう結論が出たとき、どういうふうにされるんでしょうか。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

1点目については、今具体的なご提案いただきましたので、ぜひ事務局でも検討ください。

2点目について事務局のお考えをお聞かせください。

【宮本教育長】

今ですね、担当の方から説明させていただきましたように、中間報告みたいな形でそのニーズ調査をするというのは、そういったものも想定をしていかなきゃいけないっていう部分で、実際はどうなるかわかりませんが、そういった場合は、やっぱり広域にっていう部分で、もうちょっと自治体・市町村を拡大して、これと同じようなことができるかどうかわかりませんが、何らかのニーズ調査をしていきたいというふうには考えております。

【荒井座長】

はい、よろしいでしょうか。

【E委員】

先ほど座長がおっしゃったように、ニーズを捉えるのは非常に難しい。とくに夜間中学の希望者のニーズを捉えるのは非常に難しいので、やはり、いかにこのニーズを掘り起こすかっていうことを、工夫していかなければならないと思うのですね。

ただ、さっきおっしゃったように、ニーズ調査っていうのは必要かどうかっていうことも考えねばなりません。これもいろいろな議論がありますが、2020年の国勢調査からするとニーズは明らかにあります。対象の方がいるっていうことです。

それと、国勢調査にあらわれていない形式卒業生という方を含めると、必ずニーズはあります。

だから、ニーズ調査するまでもなく、(ニーズが)あるという前提で学校を作って、学校を作った上で広報して、どんどん対象の方が集まってくるという考え方がいいのではないかと

思うのです。

また、さっき教育長がおっしゃったように、隣の市町からの募集も含めて検討していただければありがたいなと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では【B委員】、聞こえますでしょうか。お願いいたします。

【B委員】

ありがとうございます。

前提としてお聞きしたいんですけども、3月7日の設置準備会議の資料での、このオープンドアスクールのコンセプト、スクールコンセプトのところには、学びの多様化学校と夜間中学を併設した新たな学びの場として、今回のオープンドアスクールが設置されると。それが、軽井沢中学校の分校として設置されるっていうふうな表記でした。

夜間中学というシステムを使いながらも、現役の不登校の子どもたちも、教育支援センター利用としてこの学びの多様化学校に併設される夜間中学に通えるのではないかというイメージを勝手に膨らませておりました。

今、カタリバの方では、2022年から2023年文部科学省の実証事業として、増え続ける不登校に対して、夜間中学の利用者自体は昔と変わってきていると。

この夜間中学を、現役不登校の子どもたちの学べる場として開いていくのはどうなのかというところの実証事業を行っています。

今、実際に全国で4校の学校、公立の夜間中学がですね、現役の中学校の子の学びの場、学校ではないので転籍するというよりは教育支援センターとしてその場を活用して、手が空いている先生または配置されたサポートスタッフの方による支援を受けられるという形にしております。

ここはカタリバの方にも、夜の時間なら通えるという、(夜間中学は)16時30分から通えるので、それならうちの子も行けるんだけどという問い合わせを多数いただいているところです。

その意味で、今回学びの多様化学校であり夜間中学の併設校、これは三重県の今年から始まっているタイプの学校とほぼ同コンセプトなので、今回(県内で)初めて設置されるのであればそこも視野に入れた方がいいのかなと思っております。

加えて、今【E委員】がまさにおっしゃっていた点、私も共感しながら聞いていました。

夜間中学のニーズはあるんですけども、イメージが持てないので最初からニーズがありませんという結果が来るのは大変難しいという点、そのとおりだと思います。

ただ、だんだん存在が流布されて、そこが認知されていきます。

この夜間中学のアンケートの表記が、逆に間違ったイメージとして伝わってしまわないかというところも気になりました。

戦後の混乱期に様々な事情によって通えなかった人と、日本語教育が受けられなかった、日本語教育というか、日本の教育を受けられなかった外国籍の人、そして卒業したものの、何らかの理由によってほとんど学校に通えなかった方というところにフィックスされると、ニーズがここの人たちが対象だというふうになってしまい、(対象者とは) 違うのかなと思う人も出てくるかも知れないという意味でも、今回オープンドアスクールという非常に素晴らしいコンセプトを掲げたこの学校なので、誰に夜の中学校のニーズがあるのかという点も含めたアンケートの方が、逆に国勢調査で取れてないニーズも取れるのではないかというふうに感じながら聞いておりました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

たたき台は、文部科学省におけるアンケート調査の例を踏まえて作り上げているものですので、それと同じものをやるということの良さと、せっかくですから別の視点も踏まえてというご提案でした。他にはいかがでしょうか。

【C委員】

ありがとうございます。

今、【B委員】がお話された夜間中学のイメージをどういうふうに持ってもらうかという点は大事ななと思っています。

なので、この説明のところには、やはり無料であるということですか、何時から何時ぐらいまでのものであるなど、なるべくそういう通いたいなっていうふうに思ってもらえるような説明がここにはあるといいなという風に思いました。

以上です。

【M委員】

今まで出された意見と全く同感なんですが、実は長野県教育委員会はこちらで出されたニーズ調査よりも以前から、ニーズ調査を積み重ねてきてはいたんですね。

そのころ私も担当させていただいて、非常に強くご意見をいただいたのが、ニーズ調査をとるとニーズがないという結果が出てきやすいんです。

ところが、いろんなNPO団体だとか、様々な日本語教室だとかを運営されている方からは、どうしてこういう結果になるんだと。うちの周りにはこんなにいますよっていう声を非常に多くいただき、その中で、どうしたものかということで苦しんだことを思い出しました。

そのときに先ほど意見が出されたように、まず夜間中学という、そのもの自体を知ってもらうところから始めないといけないだろうというのが一つ。

それから、当事者っていうのは、なかなかその夜間中学の情報に触れられない環境にいる方も非常に多いんですね。

というわけで支援者というところに焦点を当てていくと、だいぶニーズの掘り起こしに繋がるのかなというふうに考えました。今回もそのような形で進めるということですのでぜひよろしくお願ひしたいと思います。

なお、我々県で行ったニーズ調査の結果があります。ここではあまり数値は申し上げないんですが、そのままの結果が出ると、軽井沢町となると、ちょっとあんまり多くは期待できない可能性があるんですね。

ところが広域でというふうにしていったときには、少し掘り起こされてくる部分もあるかなと思いますので、先ほどの広域でというのも1つキーワードになってくるかなと考えます。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

貴重なご意見ありがとうございます。

従いまして、資料5のですね、まさに支援者によるということが肝になってくるかと思ひます。

では【D委員】お願ひします。

【D委員】

そういう意味でね、さっき出ていましたけど、子どもたちのアンケート調査のときにモヤモヤしてて、今ちょっとそうだよなと思ったのが、学校に行きづらくなった子どもたちにとって、(要因として) 同年齢の同調圧力が大きいなっていうのを40年不登校の子どもと関わってきて感じていて、同年齢と一緒に、一斉に同じ内容を学ぶ学校っていうものに対しての苦しさは実は結構あったよねって思うときに、【B委員】が言われたけれども、同室同年齢というか、同年齢が苦手だけど夜の時間に、異年齢の人たちと学ぶっていうことに興味があるからみたいなね。

現役不登校でも、みんなと一緒にというのが苦しかったけど、ここでなら学べるのかみたいな掘り起こしになるような質問項目が入ってきたらいいなとちょっと思ったっていうことが一つ。

それから3カ国語についていう提案がどっかに書かれていたけど、僕40年前ぐらいに自主夜間中学と関わったり、夜間中学の先生や、夜間中学を出た人たちといっぱい関わってきたんだけど、東京・神奈川だと、圧倒的にほぼ韓国朝鮮の人たちが多くて、卒業生の人とずっと今も付き合っているんだけど、さっき日本語、英語、中国語だったっていうことだったけど、今時Google 翻訳とかも色々あるわけだから、もっと多言語で、スペイン語が入ってきたり、韓国

語が入ってきたり、実際僕らが関わっていた時代と大きく違うのは、夜間中学の外国人利用が圧倒的に増えた時代になっていると思うから、外国から日本にやってきて、でも日本の学校教育っていうのはすごい異文化に対して、日本の言葉をちゃんと伝えるとか、日本語学校って外国の人が入りづらいような、特別な支援があまり進んでない国、文化だと思うので、夜間中学がそこで人気になっているのは、もうちょっと日本の学校の中でも入りやすく、外国の人たちが入ってきているんだと思うので、これほどたくさん外国の人が来られる時代になったから、もうちょっと多言語で何か語りかけられてもいいんじゃないかなと思いました。

【荒井座長】

ありがとうございました。

今、多言語変換アプリがありますので、ぜひご検討ください。

【N委員】

本当に、【D委員】がおっしゃるように、多言語というのが大事なところだと思います。

アンケートを多言語でするということも大事ですが、最初に、夜間中学がどういったものかというの、特に外国人の方はピンとこないのではないかと思います。

そういったものも、タブレットを利用したり、支援者の方にお渡ししてこれを上手に説明してもらえないかというような形をとると、ニーズが具体化するとか、見えてくるんではないかなと思っております。

【荒井座長】

【E委員】、提供いただいたDVDについては積極的に活用させていただいてよろしいでしょうか。

【E委員】

そうですね。教育委員会にも何枚かお渡ししているので、それをそれぞれ日本語教室に持って行っていただいて、これ（アンケート）と一緒に生徒さんに見せてくださいというようなことができればよりイメージ作りやすいですね。

【荒井座長】

他にはいかがでしょうか。

【G委員】

僕も、夜間中学がよくわからないというのが問題かなと思っていて、フォームの中に動画とか差し込めるのかなと思うので、何かそういうふうな機能を使ってわかりやすくするとか、それか途中で動画を入れちゃうと、もしかしたら回答に影響がでるかもしれないので、少なくとも最後にリンクとか貼っておいて、回答し終わった人が、見終わった後にどんなところか知れ

るとか、なんかそういう工夫があるといいのかなと思って聞いていました。

あと、僕長野市のほうでずっとオンラインの方の支援とかをやっているんで、もしこういうふうな夜間中学のオンラインとかの可能性があるのであれば、何かそういうニーズとか知れると、僕としては嬉しいなと思っていますところですよ。

その辺ご検討いただけたらと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

【H委員】

2点あります。

1点は、実は僕の家内が、東京の大田区の夜間中学のカウンセラーをしていて、何を家でやっているかという、語学の勉強なんですね。

いろんな言葉が飛び交っているんで、簡単な言葉、挨拶とかちょっとした質問がその言語でできるように。

例えばネパール語を家でやっていたりというところを見ていて、今お話の中で出てきた、言語の問題というのは、(夜間中学を)開いたときに最初にぶつかる壁だと思うので、その辺は今後進めていくうちに考えといたほうがいいです。

もう1点は、実は自分の教え子の件なんですけれども、今36歳、中学校は出ているんですがほとんど勉強していない、ちょうどこの夜間中学に当てはまる子なんですけど、子どもがいるんで夜は出られないという状況で、今通信制の高校へ通うアドバイスをしました。

週1回だけ仕事を休んで、スクーリングに行っ、あとは家で空いている時間にレポートをするということで勉強しているんです。

軽井沢の状況がよくわからないんですが、通信制の高校と夜間中学の住み分けというか、その状況も、アンケートの中に入れるというわけじゃなく、周知をしていく。こういう手もあるよというのを教えて差し上げると、勉強したいっていう意欲がある方の受け皿になれるかなと思いました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

【E委員】

ちょっと補足をいいですか。

このDVDの英語版があります。

必要であれば、もし日本語教室とかに持っていかれる場合は、提供しますのでおっしゃってください。

【荒井座長】

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

では、ここでまた悩ましい論点を一応ここではご紹介したいと思うんですが、一つはですね、夜間中学ということのイメージがないので、ニーズ調査する上でハードルがあるということで、イメージを作ってもらうためにできる限り様々な手法を持ってアンケートを実施するというふうなパターンが一つあります。

他方で、それによって既存のイメージが出来上がってしまいますので、【B委員】からご指摘いただいたような、それとは違うオルタナティブな夜間中学の利用方法についてまで、アンケートの回答者はイメージができなくなるっていうふうなこともあります。

ですので、本日いただいたご意見を踏まえて、たたき台を具体的にできる限り早く作らせていただいて、そこでまたご意見をいただきキャッチボールを続けていくという形でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

【B委員】

確認なんですけど、学びの多様化学校対象の中学生の子が、夜だったら学校に行けるっていう選択肢を設ければどうなのでしょう。

それはやっぱりターゲットにするのは難しいなという判断を現状なさっているのかどうかを聞きたいんですが。

実際、確かにオペレーションとして、その対象に入れると結構来るような気がしていて、そうするとスタッフ体制含めて、どこをメインにするのかがイメージつかない中でちょっと大変なのかなと思ったんですけど、現状そのあたりどうされてますでしょうか？

学びの多様化学校はどうしても学籍を変えることになるので、定員を設けざるを得ない。そうすると、多くの子たちは行きたいけど行けないっていうのが出てくるので、本当はそこに教育支援センター扱いの夜間中学があると不登校の子が学びに再接続しやすくっていいと思うんですが、実際のところどういう議論がされているのかちょっと知りたいです。

【荒井座長】

はいありがとうございました。

例えば、教育支援センターで支援されている先生方も含めてですけれども、夜だったらとい

う声はありますか。

【小林スクールサポーター】

はい。スクールサポーターの小林です。

今、ご指摘いただいた点なんですけれども、夜だったらいけるっていうお子さんについては、夕方学校に登校しているという形で来ているお子さんはいらっしゃいます。

私が関わっている中で、夜だったら行けるのにというお子さんはあまりいないかなと思っていました。

【B委員】

それは教育支援センターに来ている子のニーズだからなのではないでしょうか。今回のニーズ調査の対象は、現状、接点がない子が対象になっているのではないかと思います。

【小林スクールサポーター】

支援センターにいるお子さんではなくて、私の方では軽井沢町の小・中学校を回らせていただいて、その中で保護者の方との面談ですとか、お子さんの面談ですとかをしている立場にあります。

そういった中で個別に聞いている中で、夜だったらいけるっていうのはなかなかいらっしゃらないかなというところです。

【B委員】

わかりました。今回の教育支援センターをターゲットにしうるという前提を教育委員会の方が持ってらっしゃるかを確認したかったのです。

ニーズはかなりあると思うんです。

見えてきていないだけで。

その選択肢を出すつもりがあるかどうか、要はスタッフ配置の問題なので、行政としての判断としてあり得るかっていうことを聞きました。

選択肢としてないのであればアンケートの項目の中に入れたい方がいいかなと思ったので。それを聞いていました。

【荒井座長】

つまり、新たに作るオープンドアスクールに、夜間中学校の機能を持たせた場合に、それを教育支援センターとしての機能も想定した上で考えているかどうかというご質問でよろしいですか。

【B委員】

要は、今回ニーズ調査をどうするかというところのご質問、提案だったので、ニーズ調査の

中のイメージとして誰をターゲットとするかのところを書かないと、皆さんに誰がターゲットなのかが伝わりづらいというのはあると思います。

なので、その選択肢として、学齢期の子で不登校だけれども、夜の時間ならいけるという人も対象ですっていうことを、先ほどの「戦後の混乱期に」みたいに書かれたターゲットと同じような並びに入れられるかどうかということを知りました。

【荒井座長】

ありがとうございます。

それについて、【B委員】のご意見としては、入れた方がいいんじゃないかっていうふうな気持ちとしてよろしいでしょうか。

【B委員】

はい。そうです。

かなりニーズがあるのではないかと考えていて、先ほど【D委員】もおっしゃっていたんですけど、私たちが関わった夜間中学を不登校の学齢期の子が使っている子たちは、やっぱり多様な大人と関われるのが同級生より良いというニーズも含めてあったんです。

なので、学歴期の子が使う、使いたい、そういった場所に行きたいというのは、朝起きれないのと同時に多様性の部分もあると思うので、ターゲットに入ってしまうかどうかということ、一応書けるなら書いた方が、実は多くのニーズが増えるのではないかと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

事務局の方、いかがでしょうか。

【宮本教育長】

今のご意見の中で、夜間中学に対して、今の学齢期の子という発想ですけれども、もちろんそういうことができれば、私達も、併設をするわけですからそういうことも想定していますが、仕組みとしてそれができるのかどうかというのは、公立ですので、いくつかのハードルあるかもしれませんが、そういうことができるようにするためにはどうしたらいいかっていうことを議論していきたいというふうに思っています。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では、【D委員】お願いします。

【D委員】

今、【B委員】が言われたのはオープンドアスクールに、昼間の学校は行けないけど夜間だ

つたら来れるっていうあり方をやった場合に、確かにおっしゃるとおりニーズはあると思う。
そうすると、要するに一条校だから溢れちゃうよねっていうご心配だったんじゃないかと思うんですよ。

だから、教育支援センター的に、原籍校に籍を置いたままでも夜間中学で学べるような教育機会の確保をするっていうことで整理していいでしょうかっていうご質問だったんじゃないかと思うんですけど、違いますか。

【B委員】

わかりづらくてすみません。

原籍校に籍を置きながら、学び直しの練習として、学校なり、学びの場所への再接続の場所として、夜間の時間に来れる不登校の子を対象に入れるということに可能性を感じているので、そういった意味です。

ただ、キャパシティが増えることがあるので、制度的なところは文部科学省としては推奨したいというふうに、あくまで教育支援センターとしての利用ですけれども。

対象にしうるかどうかです。

【D委員】

そうだよな。

だからこの制度として、事務局的にそういう、教育支援センター機能としての不登校の子の夜間の学びの場を、夜間中学の中に入れ込むっていうことができるのか、いやオープンドアスクールなどで、夜間中学と併設してこれ原籍校として、一条校として、そこで昼間の中学校の生徒行けなかったけどオープンドアスクールの夜間部に行くんだみたいな、そういう学びっていうのは画期的な学びになるかもしれないけど、そういうところまで持っていくという発想があるのか、いやいやそれはそもそも違うよって発想かという辺りはどっかで議論しておいた方がいいのかなって思いました。

【E委員】

今、【B委員】がおっしゃったように、カタリバが足立第4中学校で、そういう取り組みをやっていたいて、去年私のとこの学会で発表していただいてありがとうございました。

そういう効果はあるということは、もうカタリバさんが実証されているわけです。

だから、そういうフレキシブルな運用の仕方っていうのをやっていく方向性は、可能性として置いていきたいなとは思いますが。

あと、私は三重県の夜間中学設置検討委員会に関わってきたのですが、三重県は学びの多様化学校の生徒も夜間中学の生徒も、昼からの部と夜からの部と両方あります。

つまり、夜間中学に昼間部・夜間部、学びの多様化学校にも昼間部・夜間部、合計4コース

あるわけです。

そういう仕組みも作っていったら、よりいいかなと思っています。

それに、教育支援センター的な機能を乗せていけば、よりフレキシブルで、多様な学びを確保することができるのではないかなと思います。

【荒井座長】

はい、貴重なご意見ありがとうございました。

県での検討の過程では、インクルーシブでフレキシブルというふうな部分が非常に重要なコンセプトであると捉えておりました。

他にはいかがでしょうか。

では、今いただいたご意見を踏まえて、後ほどたたき台をお示しさせていただくという風に思っています。

● (5) その他

【荒井座長】

私の時間の不手際で、時間が超過し、想定よりちょっと遅れておりますけれども、続いて(5)の方に移りたいと思います。

次第ご覧ください。その他ということで、事務局から情報提供をお願いいたします。

【宮本教育長】

お時間過ぎており、申し訳ありません。

まず、そこにありますように、スクールコンセプトについてということで、これについて資料がございませんがご説明いたします。

第1回設置準備会議でお出ししたスクールコンセプトのイメージということなんですけども、前回の案のところで、皆様からいろんなご意見いただいたんですけども、基本的にそのコンセプトに反対とか、そういったようなご意見はいただいていないというふうな認識であります。

ただしですね、今回お出ししたスケジュール(案)とか、あるいは、アンケートのリード文とかですね、そのアンケートの内容とかを変えましたので、若干コンセプトに関わるという部分もありますので、今後議論が進んでいく中で、前回お示ししているコンセプト、そのイメージですけども、若干資料を訂正しながらまた提示していきたいというふうに考えています。

続けてよろしいでしょうか。

続いて設置場所ということで、スクールコンセプトも若干変わりますけれども、設置場所についても今後話題にしていかなければならない項目であります。

スケジュールの中にもですね、スクールデザインのハード面等についてもこれからご意見をいただくということを考えればですね、設置場所等についての議論も進めていかなければならないというふうに考えています。

ついてはですね、委員の皆さんの中で、町内にお住まいの方々もいらっしゃいますので、次回は事務局の方から何らかの設置場所についての資料をお出しして、設置場所について話題にしていきたいというふうに考えております。

したがいまして、委員の皆さんの中で、次回までも結構ですし、それまでの間でも結構ですので、何か設置場所についてのお考えとかですね、ここはどうなんだとか、そんなことについてご意見等があれば事務局までご連絡いただければありがたいというふうに考えております。

以上であります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

コンセプトとしてスケジュール感をお示しした上で、設置場所について次回、提案があると

いうことでした。よろしいでしょうか。

それでは一応ですね用意させていただいたものは以上になります。

● 6. その他

【荒井座長】

事務局の方で6. その他ということで今後も含めてご説明ください。

【岩井こども教育課長】

荒井座長、委員の皆さま、ありがとうございました。

それでは6. その他について事務局より説明いたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい、それでは説明させていただきます。

次回、第3回会議について説明いたします。

次第にありますとおり、次回、第3回設置準備会議は7月14日（月）ということで、会議は15時から17時までを予定しております。

場所は軽井沢発地市庭イベントスペースでお願いいたします。

こちらなんですけれども、駅からも遠いというところがありますので、軽井沢駅もしくは中軽井沢駅へ到着された際には、事務局の方でバスの方を出したいと考えております。

細かい出欠等、最終的な確認につきましては、これまでの会議と同様に、また準備できましたら各委員さんに文書で確認書を出させてもらいますので、それをもって回答いただきたいと思います。

先ほど少し話題もありましたけれども、この日に軽井沢風越学園様の方の見学を予定しておるところなんです、時間については、電車の到着時間等もあると思いますので、早めにこちらにいらっしゃいます本城委員とも詰めまして、見学時間そして開始時間を委員の皆様にお伝えしていきたいと思っておりますので、もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

続きまして、もう1点フォーラム&ワークショップということで、これから9月に開催する第4回設置準備会議と合わせて開催するという、事務局で計画をしているところでございます。

先ほど教育長からも意見ありましたが、このフォーラム&ワークショップ等で、この設置準備会議の委員さんの方、どなたかお時間をいただけるようでしたら、会議の参加依頼とともにですね、こちらの方で問いかけをさせていただきますので、積極的なご参加をお願いできればということでお願いを申し上げます。

こちらのワークショップ等につきましては、先ほどスケジュールでお伝えしたとおり、町民、

もしくは町外も含めまして、大きく周知していきたいと思いますので、皆様のお力添えをいただきたいと思っております。

以上よろしく願いいたします。

【岩井こども教育課長】

はい。

ただいま説明がありました、第3回会議前の軽井沢風越学園見学につきまして、ここにおられる本城委員にはご快諾をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

またですね、委員の皆様におかれまして、この機会にぜひともご覧いただければ幸いです。

また、先ほど説明したとおり9月のフォーラム&ワークショップにつきましても、委員の皆様をはじめ、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後になりますが、何か委員の皆様からございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

●7. 閉会

【岩井こども教育課長】

それでは以上をもちまして、第2回軽井沢オープンドスクール（仮称）設置準備会議を終了といたします。

皆様、本日はありがとうございました。